



2019年9月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年2月13日

上場会社名 株式会社イグニス
 コード番号 3689 URL <https://1923.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO
 四半期報告書提出予定日 2019年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 銭 鋺
 (氏名) 松本 智仁
 TEL 03-6408-6820

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第1四半期の連結業績(2018年10月1日～2018年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第1四半期	1,343	4.2	340		361		416	
2018年9月期第1四半期	1,289	9.0	247		250		233	

(注) 包括利益 2019年9月期第1四半期 489百万円 (%) 2018年9月期第1四半期 241百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第1四半期	30.42	
2018年9月期第1四半期	17.45	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第1四半期	5,343	2,736	50.8
2018年9月期	4,654	2,272	48.5

(参考) 自己資本 2019年9月期第1四半期 2,716百万円 2018年9月期 2,255百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期					
2019年9月期					
2019年9月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	23.1	30		10		5		0.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年9月期1Q	14,349,600 株	2018年9月期	13,676,400 株
期末自己株式数	2019年9月期1Q	43,295 株	2018年9月期	43,234 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年9月期1Q	13,677,047 株	2018年9月期1Q	13,370,075 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3.「当四半期決算に関する定性的情報(4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで2019年2月13日に開示予定となります。また、音声による補足説明についても速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	7
(追加情報)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用関連会社）は「世界にインパクトを与えなければ、気がすまない」という経営理念及び「次のあたりまえを創る。何度でも」というミッションのもと、インターネット、スマートフォン等を通じたさまざまなビジネス領域において、多くのユーザーに支持されるサービスの企画・制作・運営を行っております。

当社グループが展開する主なビジネスとして、オンライン恋愛・婚活サービス『with』等の<コミュニティ>、スマホRPG『ぼくとドラゴン』や『でみめん』等の<ネイティブゲーム>を展開し、それら2つのジャンルに属さないビジネスを<その他>とした、3ジャンルを現時点で収益を生む基盤収益事業と位置付けて展開しております。さらに、新規ジャンルへのチャレンジとして、今後、サービスの普及拡大と急成長が見込まれる分野であるVR

(Virtual Reality: 仮想現実) やAI (Artificial Intelligence: 人工知能)、IoT (Internet of Things: モノのインターネット) 等の最先端技術の商業化を目指しており、特にVRとAIを活用したビジネスを積極的投資事業と位置付け、早期収益化に向けて積極的に経営資源を投入しております。足元では子会社のバルス株式会社が展開するVR分野（新時代の音楽体験をVRで創出する、垂直統合型のエンターテインメント事業）に対し大規模な先行投資を行っており、収益貢献は次期以降を想定しておりますが、経営陣がこの分野の成長性に自信を持ち、早期収益化に向け邁進しております。このVR分野の収益化を実現するための施策として、自宅に居ながらVRでライブ体験ができるスマートフォン対応のリアルタイムライブ配信アプリ「スマホ版 INSPIX (仮)」の開発を進めており、2019年中の提供を目指しております。このVR分野に注力することが、中長期的に当社グループの業績向上に資するものであると考えております。

当第1四半期会計期間においては前期から高成長を続けている<コミュニティ>のジャンルが連結売上高に大きく貢献することとなりました。一方、新規事業の商業化に向けた開発投資や既存事業の強化に向けたプロモーション等の事業投資も前期に引き続き行いました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,343,418千円（前年同期比4.2%増）となり、事業投資として主に広告宣伝費441,888千円等の計上により販売費及び一般管理費が増加し、営業損失は340,251千円（前年同四半期は247,550千円の営業損失）、経常損失は361,760千円（前年同四半期は250,457千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失416,078千円（前年同四半期は233,295千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、当社グループは、スマートフォンアプリ事業の単一セグメントであるため、セグメント別の業績は省略しております。各ジャンルの取り組みと業績は以下のとおりであります。

<コミュニティ>

当ジャンルではオンライン恋愛・婚活サービス『with』において、プロジェクト利益を意識した最適なプロモーションやSMS認証（注1）によるログイン機能の実装等により、ユーザー数は順調に増加いたしました。また、国内ソーシャルネットワークワーキングのカテゴリにおける売上ランキングは引き続き上位収斂しております。（注2）

また、他社類似サービスとの差別化を図るべく、心理学を活用して最適な男女のマッチングを目指し、「メンタリストDaiGo監修の診断イベント機能」や各種機能やUIの改善等、各種施策を講じてまいりました。これら施策はもちろん、国内でオンライン恋愛・婚活サービスが急速に浸透してきていることから、『with』についてはプロモーションによる新規流入だけでなく、クチコミによる新規流入も増加傾向にあります。その結果、2018年12月末時点におけるユーザー数は150万人を突破し、サービスが順調に伸びております。当該サービスについては、引き続きユーザービリティの向上や精度の高いマッチングを実現する機能や、診断イベントを継続的に実施していくことで、ユーザー満足度の高い唯一無二のオンライン恋愛・婚活サービスを目指してまいります。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は649,628千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は335,672千円であったことから、前年同四半期比93.5%増となっております。

1. SMS認証：携帯電話のSMS（ショートメッセージ）を用いた本人確認のための認証機能です。
2. 出典：App Annie

<ネイティブゲーム>

当ジャンルで主力タイトルの『ぼくとドラゴン』は配信開始から4年目に突入しておりますが、スマートフォン向けゲームアプリマーケットの競争が一層激化してきている中でも、前期に引き続きプロモーションを中心とした確かなコストコントロールによりプロジェクト利益は高水準を維持いたしました。また、既存ユーザーの満足度向上を目指すため、季節イベントの強化や新規コラボレーションキャンペーンとして『るろうに剣心-明治剣客浪漫譚-』とのコラボレーションを実施し、ユーザー満足度の向上と収益の安定化に努めてまいりました。また、2018

年12月12日には女性をターゲットにした新作スマホRPG『でみめん』の提供を開始いたしました。この『でみめん』は、ユーザーの継続率も順調に推移しており、『ぼくとドラゴン』に次いで今後の収益貢献を期待しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は650,180千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は799,752千円であったことから、前年同四半期比18.7%減となっております。

<その他>

当ジャンルではグラム株式会社（旧 株式会社U-NOTE）が運営する性格傾向データによる求人マッチングサービスのビジネスを中心に、その他どのジャンルにも属さないプロダクトやVR等の新規ジャンルにより構成されております。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当ジャンルの売上高は43,609千円となりました。前年同四半期における当ジャンルの売上高は154,280千円であったことから、前年同四半期比71.7%減となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は5,343,426千円となり、前連結会計年度末に比べ688,556千円増加いたしました。流動資産は2,402,601千円（前連結会計年度末比501,206千円増）となりました。主な増加要因は、第三者割当増資の払込みを受けたこと等により現金及び預金が598,877千円増加したことによるものであります。また、固定資産は2,940,824千円（前連結会計年度末比187,349千円増）となりました。主な増加要因は、事業規模拡大に伴う本社オフィスの増床等により有形固定資産が151,411千円、長期未収入金が115,658千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は2,606,778千円となり、前連結会計年度末に比べ224,397千円増加いたしました。流動負債は2,071,177千円（前連結会計年度末比245,745千円増）となりました。主な増加要因は、運転資金の借入により短期借入金が400,000千円増加したこと、主な減少要因は、買掛金が68,432千円、未払法人税等が57,113千円減少したことによるものであります。また、固定負債は535,600千円（前連結会計年度末比21,348千円減）となりました。主な減少要因は、借入金の返済により長期借入金が57,699千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は2,736,647千円となり、前連結会計年度末に比べ464,159千円増加いたしました。主な減少要因は、利益剰余金が416,078千円減少したこと、主な増加要因は、第三者割当増資により、資本金が475,279千円、資本準備金が474,606千円増加したことによるものであります。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2018年9月期において営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、当第1四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しており、依然として継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

それに対し、当社は当該状況を解消すべく、2018年12月19日に資金の借入を実行し、また、2018年12月26日に第三者割当による新株式の発行及び行使価額修正条項付第18回新株予約権の発行に係る払込が完了しており、本四半期報告書提出日時点で財務基盤の安定化は図られております。その上で、今後も、①基盤収益事象の強化による売上維持・拡大、②積極的投資事業については選択と集中による事業の選別と早期収益化の実現、③資金調達や資金繰りの安定化、④経費の削減に努めてまいります。これらの改善策を状況に応じて適切に推進していくことから、継続企業の前提に重要な不確実性は認められないと判断しております。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期の連結業績予想につきましては、2018年11月12日に公表いたしました「2018年9月期 決算短信」の内容に変更はございません。なお、業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	480,340	1,079,217
売掛金	536,198	438,321
営業貸付金	1,312,487	1,307,763
貯蔵品	5,194	5,194
未収還付法人税等	29,072	29,072
その他	382,609	387,540
貸倒引当金	△844,507	△844,507
流動資産合計	1,901,394	2,402,601
固定資産		
有形固定資産	296,229	447,640
無形固定資産	414,306	437,449
投資その他の資産		
投資有価証券	1,113,759	1,022,008
長期未収入金	665,876	781,535
その他	979,180	968,066
貸倒引当金	△715,876	△715,876
投資その他の資産合計	2,042,939	2,055,734
固定資産合計	2,753,475	2,940,824
資産合計	4,654,869	5,343,426
負債の部		
流動負債		
買掛金	126,375	57,943
短期借入金	400,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	372,411	326,572
未払金	541,824	572,056
未払法人税等	103,458	46,344
その他	281,363	268,260
流動負債合計	1,825,432	2,071,177
固定負債		
長期借入金	304,161	246,462
資産除去債務	177,910	220,770
その他	74,878	68,368
固定負債合計	556,949	535,600
負債合計	2,382,381	2,606,778
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,621,629	2,096,908
資本剰余金	1,528,307	2,002,913
利益剰余金	△1,440,022	△1,856,101
自己株式	△52,164	△52,255
株主資本合計	1,657,749	2,191,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	593,924	522,413
為替換算調整勘定	4,064	2,651
その他の包括利益累計額合計	597,989	525,064
新株予約権	16,749	15,117
非支配株主持分	-	5,000
純資産合計	2,272,488	2,736,647
負債純資産合計	4,654,869	5,343,426

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)
売上高	1,289,705	1,343,418
売上原価	278,345	310,882
売上総利益	1,011,359	1,032,536
販売費及び一般管理費	1,258,909	1,372,787
営業損失(△)	△247,550	△340,251
営業外収益		
受取利息	385	511
為替差益	3,638	1,033
雑収入	789	1,166
営業外収益合計	4,814	2,710
営業外費用		
支払利息	1,741	1,618
株式交付費	35	10,582
支払手数料	86	4,845
持分法による投資損失	5,857	7,174
営業外費用合計	7,721	24,220
経常損失(△)	△250,457	△361,760
特別利益		
新株予約権戻入益	-	1,686
特別利益合計	-	1,686
税金等調整前四半期純損失(△)	△250,457	△360,074
法人税、住民税及び事業税	10,455	39,980
法人税等調整額	△21,178	16,023
法人税等合計	△10,722	56,003
四半期純損失(△)	△239,734	△416,078
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,439	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△233,295	△416,078

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)
四半期純損失(△)	△239,734	△416,078
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	△71,511
為替換算調整勘定	△2,172	△1,412
その他の包括利益合計	△2,172	△72,924
四半期包括利益	△241,907	△489,002
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△235,467	△489,002
非支配株主に係る四半期包括利益	△6,439	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2018年12月26日付で、当社の代表取締役社長が共同で保有する資産管理会社2社、当社の取締役1名を割当先とする、第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期四半期累計期間において資本金が475,279千円、資本準備金が474,606千円増加し、当第1四半期会計期間末において資本金が2,096,908千円、資本準備金が2,095,100千円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、2018年11月20日付で新たに設立した株式会社ミラクルプロについて、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、スマートフォンアプリ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。